

JAXA の高畑博樹 ミッションマネージャーが資料 26-5 (ETS- 実験状況)を 11 分程で説明した後、4 分余の質疑応答があった。(ETS- は大型アンテナによる受信装置が故障したが、送信用に大きなアンテナを介する事で実験を行なっており、有効な試験結果が取れている。)

池上:あの、大型アンテナはですネ、そのデブリ等でやられると云う事は無いんですか？

JAXA 高畑:ええと、其の可能性は有ると思っておりますが、現状では例えばですネ、当たればですネ、衛星の姿勢に何等かの影響が表れると思っておりますが、現状其の様な事は観測されて居りません。また、デブリが当たってもですネ、どの程度の大きさなのか分かりませんが、元々貫通しても穴が大きくなるように、まあ、そう云う風な対策をして、設計は進めて居ります。

池上:ああそうですか。其れと後ビームが一番遠い処はインドのバンガロール位まで届いてる事になってましたヨネ。

JAXA 高畑:あ、其れは多分 WINDS。

池上:ああ、そうですか。

青江:教えて貰いたいんですがネ。「無人ヘリによる衛星通信システムの開発」と云う利用実験をやろうと云う、此れはどんな実験なんですか。

JAXA 高畑:ええとです。

青江:何か面白そうな実験なんで。

JAXA 高畑:私も正確には覚えてないんですけども、まあ、斯う

云った無人ヘリを使う伝送の一部に、一寸どの段階化は正確には記憶してないんですけども、ETS- を使った伝送路も組み込んでやると云う風な事だったと思います。

青江:どんな利用が出来るんだろうと言いましょか、ラジコンでやってる奴とは別なんだろうネエ。

JAXA 高畑:そうですネ。正確には一寸、今、手元に資料が無いんで。

青江:ひょっとしたら、何か大変ヤバい¹事をやろうとしてる、そんな事は無いのかナ。

JAXA 高畑:そう云う事は無いと思えますけれども。

森尾:今予定されてる準天頂の一号機ですネ、GPS の次の世代って言いますか、進んだもの、もっと精度を上げる為の実験をしようとしてますネ。チアツ(?)を高くして。此れは其れの予備実験に相当するって言うか、此処の成果を活用して、準天頂で更に精度を上げるって云う実験をされるんですか。

JAXA 高畑:元々ETS- の場合は、測位の基盤技術を習得する、まあ、日本で初めてと云う事も御座いましたので、まあ此処に書きました様に搭載原子時計の時刻の管理ですとか、それから軌道の精密な決定ですとか、夫々自体も準天頂に其の儘反映出来る様な事項で御座いますので、そう基本

¹ 意味する処を解説する迄もないだろうが、「評価」の言葉を用いた事を憂慮する。「特定の」とか、「特殊な」とか「アノ」とか、抽象的であっても良いが、「評価」にならない「分析」の用語を使って頂きたかった。

的な部分を ETS- で検証して、準天頂に繋げると云うもので御座います。

森尾: 此処に書かれてる、ピコ秒までの位相が測定出来たと書いてあるのは、位相にして何度位に相当するんですか。

JAXA 高畑: 正確な数字は忘れまして。すみません。

森尾: まあ、あの、後で。

池上: 一寸あの、技術の、レーザスキャッタレンジングやってますヨネ。此れやっぱり雨が降ったり雲があると駄目なんですか。

JAXA 富岡: 駄目です。はい。

池上: 此れ L バンドを使ってるけど、其処で何か出来るとか、其れは無い?

JAXA 富岡: ええと、レーザは先程先生が仰いました様に天候に左右されますが、電波単独での測位の、測位と言いますか、衛星の軌道決定についても実験を行ってまして、此処に書いてあります様に、現状では 60 メートルの精度で軌道決定が出来ていると云う事で御座います。

池上: ああそうですか。

松尾委員長: それではどうも有り難う御座いました。今後もご健闘を願って居ります。ええと、用意した議題、以上で御座いますが。